

ニセコ

北海道 シャクナゲ岳、前目国内岳

1994年12月28日曇りのち晴れ
メンバー：L. 岩 毅、小森宮 秀昭
宿からタクシーでチセヌプリスキー場に着くと、まだ準備中でスキーヤーもまばらであった。一本きりのリフトが一番で乗り込む。リフト終点からはシャクナゲ岳とチセヌプリの鞍部を目指す。行く手のシャクナゲ岳の山頂付近はガスで見えない。殆ど登りも無く30分程で鞍部に着く頃には視界も開け始めた。ひと登りでシャクナゲ岳に着くと、白樺山から目国内岳方面は無木立の真っ白な斜面がなだらかに広がっている。山頂でシールを外し、シャクナゲ沼の脇を抜け、西側の沢の新雪斜面に滑り込む。この斜面はスキー場や駅で配布されているニセコ周辺の雪崩危険地域の地図で指摘されている場所の一つだが今回は何事もなかった。しかし北海道ではスキー場や、その周辺でも雪崩とその事故が結構有るようで油断は禁物。今回は互いに深雪に目が無いパーティということもあり、雪崩救難トランシーバーORTOVOX とアルミスコップを各自携帯している。新見温泉へはペンケ目国内川を水流の出ない内にと標高（以下、Hと略）670m辺りで渡り、右岸沿いをシールで進む。H600mの道路の曲がり角に出た所で、まだ時間も早いので目国内岳方面の様子を見てみたいというリーダーの提案で、とりあえず新見峠を目指し道路近くを登る。峠に出る頃には空も真っ青に晴れてくる。峠の小さな避難小屋の脇からヤブの間を登ってゆくうちに、ひらけた斜面が現れ、雪で真っ白な丘のような前目国内岳は目の前

だった。ひと登りで上に着くと目前に日本海がひらけ、積丹半島も雲間から見え隠れしている。のんびり展望を楽しんで居たい所だったが、行く手の目国内岳方面が、あつと言う間にガスに包まれて来たので、慌ててシールを外し、戻ることにする。峠までは浅いが新雪の気持ちのいい斜面で、楽しそうに滑るリーダーの後に続く。峠からは未だ雪に埋まりきっていない道路から良さそうな斜面を拾って新見温泉まで滑り込んで終了。蘭越からのタクシーを呼び宿泊しているニセコ高原YHブーハウスまで1万円を超えてしまった。やはりJR蘭越駅までのタクシー約3千円というのが正解だったようだ。尚、蘭越のタクシーはスキー客が来ないのでスキーキャリアは付けていないとの事。（小森宮 記）

タイム：チセヌプリスキー場リフト
終点H830m9：40→鞍部H890m10：10→シャクナゲ岳H1074m11：00／：15→H730m11：30→H650m11：45／：55→H600m12：35→新見峠H747m13：50／14：00→前目国内岳H980m14：43／：48→H900m14：50／15：00→新見峠→新見温泉ホテル前H500m15：50

